

令和7年度第1回 四條畷市産業振興ビジョン推進協議会(会議録)

開催日時	令和8年2月16日(月) 午後3時～午後4時30分
開催場所	四條畷市役所 本館2階 ミーティングルーム
出席者	平井委員長、上村委員、中井委員、松川委員、藤田委員、浦田委員、奥村委員、 上田委員、北田委員 (事務局)市民生活部地域振興課
欠席者	なし
傍聴者	なし
次第	1 四條畷市産業振興ビジョンアクションプランの令和6年度実績報告について 2 その他

(平井委員長)

出席委員数及び会議が成立する旨の報告。

会議の公開の決定。

会議録の公表の決定。

傍聴者に関する報告。

1 四條畷市産業振興ビジョンアクションプランの令和6年度実績報告について

(事務局)

四條畷市産業振興ビジョンアクションプランの令和6年度実績について説明

(平井委員長)

ただ今、事務局及びこの資料について説明がありましたが、本日の会議の趣旨は産業振興ビジョンアクションプランの進捗状況についてのご意見、ご質問等をいただくことですので、ぜひご自由に活発な議論をお願いします。まず初めに、今回初参加の委員がいらっしゃいますので、中井様、産業振興ビジョンについて思うところがあればお聞かせください。

(中井委員)

枚方信用金庫忍ヶ丘支店長の中井です。本会議は初参加のため、拝聴しつつ、進め方を踏まえ、私の意見や思うところがあれば発言していきたい。

(平井委員長)

よろしくお願いします。本資料は令和6年度の実績です。前回会議が令和6年12月という1年2ヶ月ぶりとなりますので、内容を思い出していただければと思います。私の方からいつも申し上げているのは、各委員商業、工業、農業、その他さまざまな分野で活躍していると思いますので、一市民として、普段自身に関わっていないところも含めて、ぜひ色々ご質問、ご意見いただければと思います。資料について、事前に事務局から送付があったと思いますが、令和6年度実績を確認、あるいは、令和7年度も締める時期ですので、その後の進捗ということでもご意見、ご質問をお願いします。産業振興ビジョンアクションプランにずっと関わっていただいております北田委

員は、この1年数ヶ月ほどで市の変化等はどういう印象ですか。

(北田委員)

高齢化が進み、どこへ行っても高齢者ばかり。若い人が目立たないので、その点が少し心配。

(平井委員長)

私も久しぶりに四條畷駅前を歩きました。とても賑わっているように見えてましたが、イオンモールの客層はだいぶ違うという印象です。

(北田委員)

買い物に行っても高齢者ばかり。若い人があまり見えないため少し心配。

(平井委員長)

消費者視点でご意見いただきましたが、商業、農業に携わっていらっしゃる皆様、いかがでしょうか。

(浦田委員)

資料に記載がある「オープンファクトリー実施に関わる支援」について、自分もキッチンカー事業で実際にオープンファクトリーの際に出店させてもらったが、小さなお子さんが見学に来ていたのに驚いた。四條畷商店街のスーパーに買い物に行った際はかなり賑わっている印象だったが、本会議や商工会員としての携わりの中では、継続が難しいという意見も聞く。お互い見ている視点が異なるためそういう意見があるのだと、オープンファクトリーに参加して強く感じた。自分も、若い世代が例えば新しい家族ができる等した際の住みやすい環境として、四條畷市でどのような商売方法が合っているのかと悩むことがあった。自分が当事者になる時代がくると感じているため、その面で見ると、オープンファクトリーは未来が見えやすい形であり、キッチンカー事業を行っている中で大きく変わったというのは体感した。

(平井委員長)

どのようなところで一番変化を感じられましたか。

(浦田委員)

自分が幼いころは、仕事の現場見学の機会がまずなかった。学校の授業では大企業はあったかもしれないが中小企業はあまりなかったため、今地元で活躍している会社に行くというのは、親にも大変良い影響があったのではないかと感じた。

(平井委員長)

オープンファクトリーは、東大阪をはじめ工場集積がある地域では、今トレンドになっていると感じている。お子さんや若い方も来られていましたか。

(浦田委員)

自分は、東大阪、大東、四條畷の3市で事業をさせてもらったが、東大阪ではご年配から小さなお子さんが参加していた。四條畷では、エムズコーポレーションや吉川鉄工が参加しており、親子で参加している方が多かったという印象。市が力を入れている世代は不明だが、関われる場所があるのは良いことだと感じた。

(平井委員長)

オープンファクトリーは子どもに対するものづくりの啓発、若年層に対する就職先としての検討など多様なターゲットがあると思います。資料のとおり実績としての数字

は出ていますが、今の話のように、中身的な展開方法、進め方など、我々としての情報のインプットが必要だと思いますので、参考になりました。今の話を聞いて上村委員はオープンファクトリーをどう評価されますか。

(上村委員)

自分は全く関わっていないが、四條畷の場合、お互いの工場が離れており、実施が難しい部分がある。以前にも話したと思うが、自分の会社は要望があれば小学校の工場見学は行っており、今年も1月に岡部小学校の3年生が来た。多い時だと3校程度受け入れていたが、今年は1校のみ。3年生という時期が、社会見学を通じて色々と教わる時期なのだろうと感じている。

(平井委員長)

私は2010年度から四條畷市産業振興ビジョンに関わっているが、東大阪や八尾と比べると四條畷は製造業のイメージがそれほど強くないのが正直なところ。そのため、オープンファクトリーは効果が薄いのではと思っていましたが、今の話を踏まえると浸透している部分があると感じました。私のゼミの活動で、学生から大阪府の「副首都」取組の提案として町工場の活性化をテーマにしたいと要望があり、東大阪に行く機会がかなり多くありました。若年層の職業として製造業を選択してもらうためには、キッザニアのような楽しく学べて製造業に興味を持てる常設の場所が必要だという提案を実際に行い、特別賞をいただきました。子どもから中高生ぐらいに対して、人材確保の側面、製造業に対する親和性を図っていくことは、意味のある活動だと思います。浦田委員、他にもありますか。

(浦田委員)

先ほど北田委員から話があったように、年配の方が動きづらい社会になっていると感じる部分はある。恐らく、出かける時間はあるが場所が同じのため、街全体の交流場所がないのではと感じている。自分は田原台に住んでいるが、四條畷市全体を通して一緒に実施しているイベントが少ない。5年前からやっているオクトーバーフェストに昨年初めて参加し、楽しい祭りは必ず広めた方がいいと個人的に強く思った。また、昔やっていた神社の参道での祭りであったり、今は自分と同じ地区に住んでいて元々音楽関係の仕事をしていた星山さんが「アートカーニバル」というイベントを助成金と自費で行っていた。アートを残しながら地域の文化などを根付かせたいという思いで実施されているが、住民が「このようなことをしたい」ということをできるような場所だったり、個人が街を盛り上げたい言い出しやすい場所だったり、「こういうイベントは良い」と見てわかるような場所作りができるのが、今の環境には最も必要とされているのではないかと感じた。

(平井委員長)

四條畷市には様々な世代、地区がありますが、発言いただいたイベントで繋がる部分もあるのかもしれませんが。奥村委員はご存じでしたか。

(奥村委員)

自分は携わることはなかったが、聞いていた話もある。農業に関しては、学校への米の納品について、今までは1年間通して卸していたが、ご存じのとおり米の価格が倍になってしまったため、市の予算、納品量も踏まえて厳しい状況にある。子どもたちに

は地場産野菜を食べてほしいと思うが、作り手の減少、夏の猛暑、高齢化の影響もあり、これらをどうクリアしていくのが農業としての一番の課題だと感じている。

(平井委員長)

農家にとっては米の価格が下がらない方がよい、追い風だという議論もありましたが、先ほど情報提供いただいた学校給食の地産地消にもかなり影響を受けられましたか。

(奥村委員)

はい。本格的には始まってからでないといけないが、米の納品が少なく1年間納品できない可能性がある。農業者もがんばっているが厳しい状況が続いている。給食センターでのアンケート結果ではパンより米の方が食べたいという回答だったらしい。

(平井委員長)

四條畷市は特にお米の話はよくされていたという印象がありますがいかがでしょうか。

(奥村委員)

少し前は米自体なかったが、今はイオンに行けば販売している。我々JAも色々言われているが、本当に米がない状況。商社と外食産業は確実にあり、本当に力が大きいため、町自体を抑えており、その町の米は外にやはり出てこない形になる。

(平井委員長)

一昔前と自給の考えは変わってると思いますが、本来地産地消には、遠くから運搬するというのではなく、地元のもので賄っていくという意味があります。農業のことを1、2年でどうこうするというのは難しいと思いますが、今の変化が追い風になっているはないですか。

(奥村委員)

生産者としては、それほどではない。

(上田委員)

委員長の話のとおり。質問趣旨からは外れているかもしれないが、現在学校訪問として交野支援学校の生徒と一緒に田植えと稲刈りを実施しており、先生も初体験で喜んでいました。そのような意味で農業との接点を持つことは良いことだと思う。

(平井委員長)

オープンファクトリーならぬオープンファームですね。上田委員はこの1年の農業の動きはどう思いますか。

(上田委員)

大阪産の農産物は簡単に作れるものではない。ターゲット、作業の洗い出し、軌道修正等の作業が必要となるが、財政担保がなければ難しい。

(平井委員長)

地産地消は聞こえが良いのですが、コスト面で普及品と価格が合わないという議論がずっとありましたが、その差が縮まってきていることによるチャンスはありますか。

(上田委員)

当社で試験栽培している大阪版小麦を大阪産もロット数が必要であり、他の小麦と対

抗するには納品量が足りないため断られた。

(平井委員長)

農業も資料に様々な政策の記載がありますが、お二人が感じたところがありますか。

(奥村委員)

どんな制度でも、次の担い手確保が一番大事。給料がサラリーマンと同様ではなく、また今の農業では人間ありきになっており、それでは農業が続かない。企業と一緒にする、個人で農業をする場合は労力を減らすなど工夫する必要がある。思いは大事だが、体力がついていかない。職業としての農業について、情報発信を行う必要がある。

(平井委員長)

奥村委員のご意見について、資料に記載がある事業一覧にも組み込まれていますが、共有したとしてもすぐ結果が出るということではありません。商業、工業、農業共通した根っこの問題を感じています。特に商業については2010年から同じ根本問題があると思いますが、松川委員いかがでしょう。

(松川委員)

委員長ご指摘の通り。自分が子どもの時代はサラリーマンより商売人が収入がよいと言われていたが、現在は逆転してしまっている。逆に言うと、自分の子どもに仕事を継がせるのではなく、気にせず働きなさいという時代が変わってしまった。今言っても仕方ないが、先ほどから話題に上がっているように、四條畷市の良さを知ってもらうことが必要。オープンファクトリーなどで地元の工場を知ってもらうのも良いだろうし、農業も含めて知ってもらうのも一つの手段。学校の社会見学で商業施設に行っている。教師によって変わると思うが、例えばなんこうシャルの事業者に商売について15分程度説明してほしいと言われていた時代もあったが、最近は商店街を歩き、学校へ帰ってから授業を行っている。やり方がずいぶん変わった。以前には、3、4人でグループを組み、各店舗に1人ずつ事前に考えたインタビューを行ったこともあった。こちらは商業の実態を答え、子どもたちはインタビュー結果をメモして学校へ帰り、発表後にインタビューを行った店舗に子どもたちからお礼の手紙があるというような内容。ただ単に見て終わるだけでなく、そういったことも楽しめるので、大変いい取り組みだと思った。オープンファクトリーの話に戻るが、近年は遊ぶ場所がなくなり、年間通じての祭りもほとんどなくなった。子どもたちが楽しく遊べる場所や遊ぶ機会が今四條畷にはなくなってきていると感じている。その中で、オープンファクトリーという勉強しながら「遊ぶ場所」という機会を作っていることが、もっと子どもたちに広がっていけば、いい機会になると感じた。また、そういった内容のものを商店街でもやっていきたいと思っている。以前、商店街に様々なお店を呼んで、人に来てもらうような「ナワテリング」のイベントもしていたが、コロナ禍、イベント中止、実行力のある人がいない、費用回収が大変になっているため、現在は実施ができない。今後、商店街を盛り上げていくとなると、人が集まるような企画・イベントを何らかの形で打ち出し、作っていかねばいけないと考えている。

(平井委員長)

商店街で子どもが走り回って遊ぶという従来の形からは変わってきているということでしょうか。

(松川委員)

その通り。特に四條畷の商店街は、楠公通りは車道があるため危険であり、栄通りぐらいしか安全な場所はない。また、子ども同士で買い物に来ることがほとんどないため、行ってもせいぜいイオンで遊ぶぐらい。徐々に、その生活様式が変化しているため、それに合わせた商業の方法へ変えないと、お客様がついていけず、客離れに繋がる。

(平井委員長)

実は、今日少し時間があつたため、四條畷駅前を久しぶりに歩きましたが、月曜日なので食事する場所がなく、仕方なく四條畷イオンモールに行きました。やはり、お子さん連れの方が多くいたため、先ほど北田委員からの発言のように、駅前には賑わっていますが高齢の方がかなり多く、イオンモールのフードコートはベビーカーを押している若い母親が多い。いいか悪いかは別として、そこに差があると感じました。

(松川委員)

昔からある意見は、駐車場がない店が多いという点。普通の駐車場は時間貸しのため長時間車を停めていられないが、イオンモールでは一日車を駐車できるため、やはりイオンモールに行ってしまうし、また天気、暑さ・寒さも関係ない。そのような意味では、大型ショッピングセンターができると客を奪われてしまう。逆に言うと、車がない、自転車に乗るのも大変、近くでしか買い物ができないような高齢者だけが、唯一その商店街で買い物をしてくれている。そういった方々が四條畷にはたくさんいるため、なんとか持ちこたえている状態。

(平井委員長)

商店街での買い物が好きという方はいるため、そういった部分では魅力があると考えている。

(松川委員)

商店街の方がイオンよりも安くて良いものを買えることもある。

(平井委員長)

物によってはその通りだと思います。藤田委員はサービス業の立場として、実感はいかがですか。

(藤田委員)

次の4月で起業して2年になるが、今までの雇用されていた立場と違い、自分でお金を稼ぐ大変さを感じている。自分も四條畷市に引っ越して4年程度であり、もともと住んでいた大阪市内で人脈を活用するために出向いたり、昨年から通っている経営塾でのつながりで仕事をいただいたりすることが多くなっている。四條畷市でも増えてきているが、なかなか難しく、本来であれば四條畷市近辺での仕事につなげられるのが1番いいと感じている。資料に記載されている「大人の学び直しの補助金」は、自分も昨年度申請させてもらった。申請も電話で相談し、受講後は修了書類を提出するという簡単な手続きだった。受講した内容は学ぶきっかけになり、良かったと感じている。また、「なわてチャレンジ補助金」も一昨年申請した。令和8年9月から新制度が開始したが2回続けての申請は不可だったため申請できなかった。情報を知って、様々活用できたためよかったと感じた。

(平井委員長)

創業支援の話も伺おうと思っていました。制度申請が大変だというのは想像していますが、使い勝手がいいという評価という感じですか。

(藤田委員)

「大人の学び直しの補助金」は満額補助していただいた。今の仕事にも繋がっているもので、すごく助かった。

(上村委員)

高市政権になり、昨年から国が経済対策に力を入れる話がある。今年は、大阪府、国からの経済対策支援など様々情報が入ってくる。そういう意味では、しっかりとその商工会会員に話題を提供できるようにしたいと考えている。中小・小規模事業者に限らず大変厳しい状況が続いているため、その点をセールスポイントとしてあげたいと考えている。

(平井委員長)

中小企業の研究をしている中で、海外でも様々な制度を作っていますが、海外も様々な国があり、国が制度を作っても全然使えないことがあるという話をよく聞きます。ただ、一旦知って利用すれば、実はいい効果が得られ、そのいいケースを広めていく使って成長できたという発信がたくさんあれば助けになると思います。どの分野でも創業支援は割と書かれている部分ですが、今までの議論を聞かれて、中井委員何かありますでしょうか。

(中井委員)

本庫は四條畷市、四條畷市商工会と連携協定を結んでおり、様々な情報交換をしている。役に立てることが今後増えていくと思っている。先ほど話にがかったチャレンジ補助金は何回目になるか。

(事務局)

制度は2年間の時限的でしたが、現在それをさらに2年延長して後半に入っているような状況です。

(中井委員)

利用者が増えていると聞いている。商工会から創業希望の案内があり、できるできないというのは当然あるが、我々も応援したいと考えている。現在も連携が図れていると思っているが、今後さらに協力できるよう本部でも検討しており、力になればなと考えている。我々が1番問題になっているのが、事業承継。M&A につながればいいが、たどり着く前に諦める方もいる。早めに相談があれば力になれる。オープンファクトリーの話で言うと、自分は忍ヶ丘支店に来る前は枚方にいたが、枚方でも比較的オープンファクトリーを推進しており、ものづくりを子どもに体験させ、製造業の楽しさを分かってもらおうということをしてきた。内容としては、その会社で遊べるトレーディングカードを作るなど子どもたちが食いつくアイデアだった。全業種後継者不足だと思うので、今後どうしていくのが課題と感じている。また、顧客からよく言われるのが、四條畷駅は大東市にあり、四條畷商店街に来られた方は四條畷駅の方へ行ってしまうこと。四條畷市唯一の駅である忍ヶ丘駅は快速が止まらず、若者が時間を潰せるような場所がない。人の流れが国道163号線で分断されているイメージもあり、電通

大の学生は忍ヶ丘駅から歩くため、若者は見かけても駅を素通りしてしまうため、先ほど浦田委員から話があったオクトーバーフェストも、若者がかなり集まっていて驚いた。あの賑わいがあると活気が出ると思う。当庫でも事業者を誘致しているが、最終判断は事業者にあるので、四條畷市と協力ができるいいアイデアがあればと考えている。また、現金しか使用できない店舗が多く、キャッシュレスが進んでいない印象がある。今の若者は、財布を持たないため、現金のみだと影響があると感じている。おそらく手数料などの関係で現金のみの取り扱いをしていると思うが、その辺がうまくできればよい。

(平井委員長)

忍ヶ丘駅までは足を伸ばせませんでした。当初本ビジョン作成する際に、学生と一緒に来て歩いたことがある。当時から忍ヶ丘通り商店街が分からず、駅前の商業施設と様相が違った感じがしました。今はまだキャッシュのみの店舗が並んでいるのでしょうか。

(中井委員)

キャッシュレスは進んでいるが、印象として国道163号線と飯盛山により、四條畷市が縦横に分断されている。そこをどう繋いでいくのかがなかなか難しいと思う。

(松川委員)

キャッシュレスに関して、コロナ前に国の補助金があった時代があった。その時に商工会で勉強会をしたが、参加者も短期間では集まりにくかった。現状だと、四條畷商店街でも一部店舗は結構使えるようにはしたが、店主に高齢者が多く、店主自身がキャッシュを使えないため、顧客から質問されてもわからない状況。また、顧客も商店街に来ている高齢家族になるため、使用者は少なくなっている。実際、高齢の人でもキャッシュレス、クレジットカード、QRコード決済などを利用している方もいるが、店舗で対応できないし、対応するための教育が間に合っていないため、そこを改善するしかないと考えている。

(平井委員長)

やりたいけどできないということですか。

(松川委員)

キャッシュレス会社の人に来てもらい、各店舗を回ってもらった。説明した時は、「わかった」というが、時間が経つと「無理」と言われ、登録したが使用不可の状態。一応店舗として登録しているが、実際は店主以外使用できない状況になっているケースもある。元気ある飲食店は導入しているらしい。

(平井委員長)

学生からアルバイトの話聞いても、覚えるのは結構大変ということは聞いたことがあります。消費者側として、北田さんいかがですか。

(北田委員)

自分はお釣りをもらいたくないためほぼキャッシュレスだが、高齢になったら現金の方が安心できるイメージがあると思う。

(平井委員長)

使う人がいないから導入しないというのもあると思います。

(松川委員)

実際は手数料もハードルにはなってる。実際は、売り上げが落ちる状態で経費かけたくないのが実情なので、事業者も導入しやすいように整備してくれている。クレジットカードも似たような状況。

(平井委員長)

私の所属が社会情報関連になるのでお伝えすると、例えば違うかもしれませんが、若者と高齢者で、高齢者が IT 機器の使い方教えてもらう代わりに若者は料理を教えてもらうという教え合いというのもありだと聞きながら思いました。

(松川委員)

他市では実例があるらしいが、商店街にそれができる場所がない。四條畷ではそういうスペースがない。腰を上げてくれる方も少ない。

(平井委員長)

四條畷の問題を長年聞いてみると、根底にあるのは「担い手」だと感じています。事業承継含め、地域を動かす方々が若者から高齢者という広い世代で担う姿があると変わって思っています。最終的に、全分野はそこに行きつくと感じました。中井委員にお聞きしたいのが、枚方信用金庫として創業相談の特徴や共通に抱えてる課題はありますか。

(中井委員)

創業者の事情は様々。当庫が手伝えるのは、事業計画策定支援、金融支援になる。創業して5年続けばいい方で、事業を継続するというのはかなり難しい。ワンストップ相談を実施している中では、しっかりした事業計画、ビジョン、パイプがないと新規事業は難しいと感じている。金融支援を手伝いできる範囲で支援しているが、最終的に事業者の考え方も影響するため、難しい。特に、コロナ融資の最大5年の据え置き期間が終了となるタイミングで、資金繰りの相談が増加している。今まで利息のみの支払いだったのが、元金の支払いが始まった途端に資金計画が狂ってしまい、巻き直しができず、廃業も含めて検討をしていかない状況もある。売り上げが上がらないタイミングの理由はそれぞれあると思うし、最終的によろず支援などに案内している。産業が廃れると町も廃れてしまうし、雇用も守る必要があるので、どうにかできないかというのは考える。

(平井委員長)

政策的に「創業支援」は新しいものを生み出すことで注目もされますが、実は難しかったりします。M&A も中小規模になると、誰かに譲ること自体が難しく、簡単にいかないと思ったりもします。

(中井委員)

M&A 専門の業者もいるが、細かい条件面もあり難しい。制約に結びついたケースもあるが、結構ハードルが高いと感じた。

(平井委員長)

本来は、今まで続けてきたものを変えないといけない、やめないといけない、新しく変わらないといけないという新陳代謝が図られて活性化すると思います。その際のアプローチで記載があると思います。そういう目線を見た時に、令和6年度実績の資

料について、気になる部分は伺いたいと思います。学校給食のように他の部分のボトルネックにより実行が難しいなどがあるかもしれません。委員皆さんから見て、気になる点等あればご意見いただければと思います。本日様々な内容を伺っていると、根底の問題である担い手の確保、若者含めた世代間の交流へのアプローチなど、アクションプランは、具体的な内容を記載する必要があるのですが、その視点で意識しながら見ていただければと思います。今日話したからと言ってすぐ実行できるということではないですが、念頭においておいていざというときにつながることはできると思います。全般で結構ですが、お気づきのところがありますか。

(松川委員)

商業分野だと、過去に高校、大学などの学校関係の力を借りてやっていた時期もあった。ここ数年はやっていないし、市役所と連携している大学の数などは把握していないが、学生視点での商店街活性化や手法などを一緒に考える機会を作ってもらえたら面白いと思っている。

(平井委員長)

以前、大阪商業大学さんと商店街マップを作製しましたね。

(松川委員)

それ以外でも映像作成などもしてくれた。今は、学生との接点が最近は全くない。学生視点が入ると全然違った視点で物事をとらえ、意見を出してくれるため、商店街が活性化すると感じている。

(平井委員長)

ぜひ前向きに検討させていただきたい。実は、入試の仕事もやっていて、高校に営業のような形でよく行くのですが、ある神戸の高校で「探求授業の発表会」に呼ばれて行かせてもらったことがあります。内容としては、様々な分野でグループを組み、調べて発表するというものなのですが、その1つに「神戸学」を扱っている分野がありました。「神戸学」は神戸に関する様々な発表なのですが、あるグループが元町商店街の活性化として、中華街の奥にある閑散エリアについて高校生が研究していました。発表内容は、「推し活」と組み合わせるとのことで、推しキャラクターと和菓子屋で商品のコラボ化により、聖地化して多くの人に来てもらうというような内容でした。方向性として非常にレベルが高いと感心していましたが、大学でもそういう活動があります。大学生は2、3年で入れ替わるため、持続性の課題はありますが、教育現場でもフィールドを求めてるところがあるので、商店街をオープンにしたらできることが多いと感じました。

(松川委員)

他所では、大学がサークル活動の一環として商店街を盛り上げていると聞いている。

(平井委員長)

学生にとってアルバイトはやらないといけないので面白くない。ボランティア活動などの機会に飢えてるところもあると聞いています。仕事じゃない活動に熱中したいというニーズが結構あると思っています。浦田委員、いかがでしょうか。

(浦田委員)

今日のような話を聞くこと自体、将来何かに繋がると感じた。また、先日、読売新聞社

の記者と話した際に、天王寺の通天閣は商店街の人たちの協賛で立ってるものと聞き、商売の街だと感じた。昔に商売されている方の中身を見る機会がないので、話だけでも聞く、また商売の結果、残されてる町や市など様々なところで見分を広げるのは大事だというのは、本協議会に出席してさらに思うようになった。

(平井委員長)

ありがとうございます。本会議の目的の効果の1つとして、様々な業種の方がそれぞれの立場で意見交換することにより、ネットワーク作りにもなると思いますし、大事な場面だと思っています。ぜひこの機会を活用していただきたいと思っています。定期的に立てた目標に対する数値を市民目線も含めて点検し、新しいアイデアなどを常に担当部署とのやり取りで活用いただければと思います。それ以外の効果として、「四條畷」という範囲が決まっているため、農業、商業、工業という独立した産業振興ではなくて、様々な場面で絡まり、高め合うというのを期待しているところです。昔は、観光もあり、「4分野」と言っていた時代もありました。現在、四條畷の「観光」は、「シティプロモーション」という枠内で実施していますが、地域という1つの核になり、様々な主体が絡み合うということが、四條畷市は見えやすいと感じています。

(上村委員)

関連がないかもしれないが、中小企業者、小規模事業者にとって人手不足は、切実な問題。三田の奥に会社がある我々の同業者がいるが、ちょうどこの時期の外気温がマイナス8度らしい。その会社では、金網を作る際に水と油を混ぜて機械を動かしていくので水を出し続ける必要があるが、朝起きたら凍って動かないらしい。その会社の従業員は高齢者が多いが、ほとんど中途採用で、水道工事経験者、電気工事経験者など様々な経験を積んでいる方がいるため、トラブルが起こった際には迅速に対応されるとのこと。それを踏まえると、若者の雇用だけが企業にとってのプラスになるわけではなく、多様な経験を積んだ高齢者の雇用も企業にとってのプラスになると感じた。こういう事例をみると、採用等はよく検討する必要があると感じる。

(松川委員)

若者がすべていいとは限らない。社会経験が少ないので伝わらない、行動できない部分が多い。即戦力は60歳を超えてからかもしれないと感じることもある。

(中井委員)

当庫でも、以前に「アクティブシニア」という専門家を雇い、顧客の課題解決に特化した時期があり、大変好評をいただいた。働く中で培った才能を「定年」というだけで失うのは大変もったいないため、その技術を若者に教えるのもいいかもしれない。

(平井委員長)

多世代交流に近い一方、社会問題として退職後に空いている層があるであれば、経験不足で困っているところをうまく繋ぎ合わせる仕組みが求められていると思います。全然違うネットワークが、お互いのために有効に機能する仕組みを本来はめざしていくと思います。この産業振興ビジョンアクションプランについては、しっかりと数字に残し、効果を確認して必要に応じて修正を行いながら進めていくことが求められています。今までの議論の中で、伝えておきたいことがありましたら、ご発言をお願いします。令和8年度が迫ってきている時期ではありますが、本ビジョンは中長期計画です

ので、しっかりと定期的に進捗を確認するのが我々に課せられた責務です。本日はどちらかという、各分野の根底にある問題を委員皆さんと共有した感じもしますが、それも大事なことです。もし、この場で意見がなかったけど後々意見が出てきた場合などは、事務局にご連絡いただきましたら対応させていただきますので、よろしくお願いいたします。本日の会議は、商業、工業、農業、各分野の令和6年度実績値の確認をしていただいたということになります。

2 その他

(事務局)

- ・本委員の委嘱について(令和8年3月31日をもって任期満了)
- ・四條畷市産業振興ビジョン、四條畷市産業ビジョンアクションプランの改訂スケジュール
- ・令和8年度実施予定の事業者向けアンケート

(平井委員長)

それでは、本日の会議はこれをもって終了とします。

以上